

オンラインで語り部

南三陸 外国人対象に町をPR

外国人を対象にしたオンラインの語り部ツアーが20日、南三陸ホテル観洋などで開かれた。町内で活動する語り部が、英語で東日本大震災の被災状況や復興の過程などを紹介し、インバウンド需要の取り込みを図った。

一般社団法人3・11伝承ロード推進機構の主催。東北の観光需要回復、新型コロナウイルス感染症の終息後のインバウンド誘致に生かすことを目的に、復興庁の事業を活用した

試みで、2人の語り部が、志津川黒崎地内の「海に見える命の森」とホテルから、アメリカやインド、ニュージーランドの参加者約50人に配信した。

町内の被害の概要に加え、戸倉中学校や高野会館での避難行動、救出劇、町の復興の様子を写真などで紹介。志津川湾を見下ろせる命の森では、ミヤンマーから寄贈された仏像がある山頂付近から、鎮魂の場の整備、環境保全活動の展開、

自然と共存することの重要性などを伝えた。参加者からは、「コロナが明けたらぜひ訪れたい」「日本を訪問できない中、貴重な体験だった」などと好評だった。

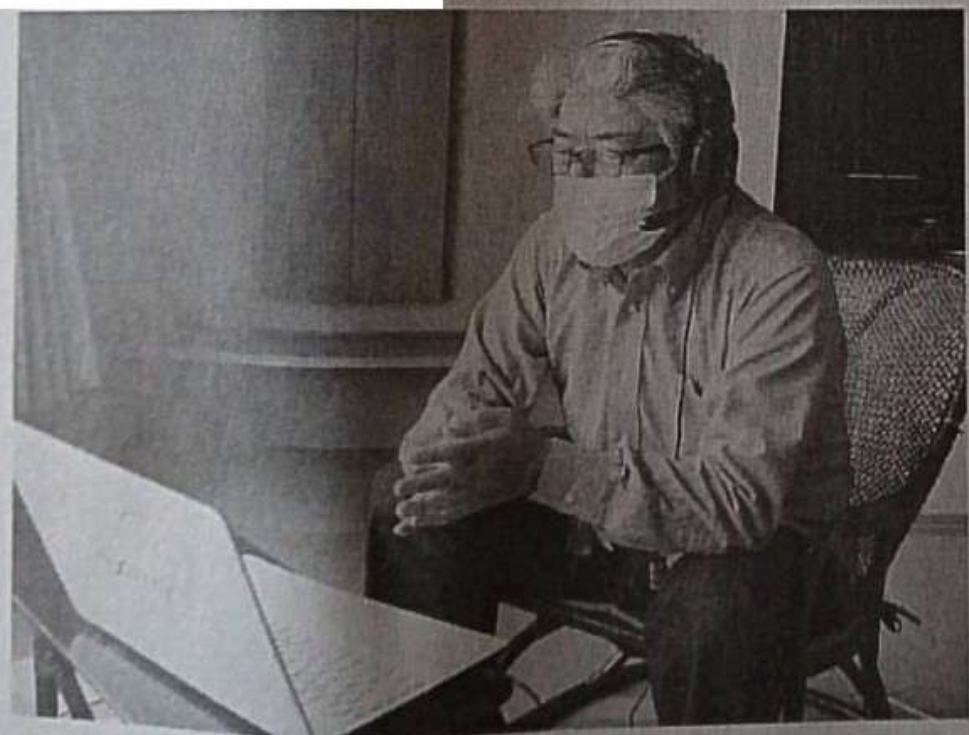
ガイドの山内松吾さん（気仙沼市東新城）は、「新型コロナウイルスの影響で日本に來られなくてもオンラインで配信できる。バーチャルでも情報を発信することも、今後の来訪や震災伝承につながるはずだ」と話した。

交通事故日報

21日

2021年2月23日(火)
三陸新報

※記事の掲載許諾を得ています



オンラインで語り部を配信